

地理試験に挑戦!

一月二十日の午後、東京タクシーセンターに地理試験を受けに行った。会社から受験料二千八百円を貰い、センター二階の試験場でタクシー会社からの受験者と一緒に受験。結果、見事に落ちた…。ここからは少し、(といつかもろ!) 弁解だが、そもそも地理試験を受けたのは、弊社のお客様であるタクシー事業者から「乗務員として養成している応募者が、なかなか地理試験に合格せず困っている。つきっきりの指導も難しいので、コンピュータで試験の演習や評価ができないだろうか」と宿題を頂いたからである。では地理試験とはどんなものか一度受けてみようと思ひ、タクシーセンターに問い合わせてみると、一般者も受験可能とわかり、問題集なども買い集めて挑戦することにした。と、ここまででは良いのだけど、合格しなくてはいけないという切迫感がないために、殆ど勉強せずに試験日を迎え、結局合格ラインの四十間中

三十二問正解に至らず(一応三十一問正解の惜しい人リストには挙げられたが…)、不合格者の一員になってしまった。合格するつもりで受けた訳では無いと思いつつも、いざ落ちると悔しい…。一方で、もしこの程度の準備でたまたま受かってしまったら世の中を甘く見てしまう、などと自分を納得させたりして…。それにしてもこの地理試験を合格しないと、東京でタクシーの乗務はできない。当日受けた四十数名の半分は不合格になり、意気消沈し、暗い顔をしていた。タクシーの乗務員になるのにも決して楽ではないのだ。そういえば自分も、三十三年前に同じように乗務員になれないのかという不安を抱えて、しよげていたのを思い出す。

二種免受験も楽ではない…

二十六歳のとき、タクシー乗務員になろうと思った。学生運動で脛に傷を持ち、そしてその世界から離脱し、普通の生活を目指していた

清野吉光氏のコラム

団塊耕志録 第5回



清野 吉光(きよの よしみつ)略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

タクシー革命前夜!

自分には、タクシー乗務員はあこがれだった。過去を深くは問わず、免許証さえあればどこでも食える、そんなイメージだった。それに車の運転が好きなら自分には、一日中車の運転をできるなんて最高だ!と思えた。自分の場合、タクシー乗務員はなりたくてなったのである。しかし、実のところ、そう簡単にはなれなかった。学科試験は一発で受かったが、深視力検査が受からない。要領をよくつかめず、結果実地試験に進むことができなかった。この時はかなり落ち込んだ。悪いことにその時財布を落としてしまい、旧清水市の自宅アパートまで、二十キロ近く離れた静岡運転免許試験場からトボトボと歩いて帰った。タクシーの乗務員になることが当時の自分にとって救いでもあり、目標でもあったのに、その道も断たれるのかと暗澹たる思いであった。さいわい二回目で深視力検査は合格した。少し慣れたこともあるが、半分は検査官のお情けもあったよな気がする。だから、い

までも深視力検査は苦手で大嫌いだ!実地検査の方は四回目で合格したが、平均的な回数のような。中には十回以上受けても受からない人がいて、タクシー乗務を断念する人もいる。試験はいつの場面でも人の人生を振り分ける。が、何が良かったのかは棺桶の蓋を閉じるまでわからない。最後まで自分の人生を諦めない事だと思ふ。

ついでに 運行管理者試験!

試験と言えば、国家資格である運行管理者試験にオリエントの社員は挑戦する事になっている。自分も関東乗用第三〇七三号という運





行管理者資格者証登録番号を持つているが、弊社の営業は全員夫々の運輸局の行管理者資格を取ることが義務付けられている。また、最近ではシステムの人たちがこの資格に挑戦を始めている。当初はどちらかというと、営業的なアピールとしてこの行管理者資格を捉えていたが、しかし実際の基礎研修や試験勉強の中で、タクシー業が道路運送法、労働基準法など様々な法律の下に運営されている事が改めて理解され、タクシー経営とタクシー業務の把握のためにこの資格、あるいはこの資格をとるための勉強が有用であると感じた。弊社の役割はタクシー

会社様がその業務を高いレベルで運用することのお手伝いをするという事。その為に弊社が出来ること、逆に出来ていないことをしっかりと見つけ、自ら学習を継続すると同時に、その為のノウハウを持つ外部の人たちと積極的にコラボレーションを進めて、共にお客様にお役に立って行こうと思

「タクシー革命前夜」

先月のこのコラムで寺前教授の「モバイル交通革命」の新版を期待する旨書かせて頂いたが、先日打ち合わせがあった。出版についてはオリジンが責任を持ち、二〇〇一年出版以降の状況

変化を踏まえながら、寺前先生の思い描く「総合生活移動産業」というコンセプトを、分かりやすいコラム形式で書いて頂ける事になった。「総合生活移動産業」という言葉についてはタクシービジョン小委員会の答申でも使われているが、寺前先生のコンセプトはより広く、深い視点で提起されていると思う。私自身も含め、まだまだその全体構想を理解できていないような気がする。日本における「サービス産業の生産性の低さ」が巷で指摘されているが、まさにタクシー産業も例外ではない、いや典型と言っても良いかも知れない。しかし生産性とは狭い意味での効率性や収益性だけではなく、広い意味での人間的価値の生産性でもあると思いたい。資本主義原理主義が行き詰まり、そしてまた社会主義も歴史の経験の中で崩壊している今、まったく新しい価値原理に基づく仕組みの創造の時代が始まるのではないかと思う。懇意にしている福岡の大稲自動車

くもりを、いつも」だとの事。マネタリー経済とポランティアと企業家が融合した社会企業家が、登場し活躍する時代になりつつある。人の移動を人が担う人流業としてのタクシーが、「ぬくもり」を広げる産業として飛躍すればどんなに素晴らしいだろう。「宅急便」も家庭から便利に安く、全国どこでも翌日に配達できたらどんなに人々の生活がよくなるだろう、そのための仕組みをどう作るかという事で苦勞の末に創造されたのだと思う。タクシーは物ではなく、人の移動のお手伝いをするものだから、「宅急便」よりもっと可能性を秘めていると思う。何故なら乗務員とお客様の間で新たな価値が生まれる可能性があるからだ。そして、それに向けて挑戦を始めている人達がいます。寺前先生の新著は「タクシー革命前夜」が良いという意見があった。なるほど...。時代を切り開く本になってほしい。

(二〇〇九・二・一七)

ALCmini II

Alcohol Recording System for Professional



「吹き込む」・「測定する」・「記録する」。
ALC-mini-IIで始めるカシタ3ステップの飲酒点検。

製品貸し出し
キャンペーン

好評発売中!!

コンパクトボディでプリンタ機能搭載!
3ステップの簡便性と高い測定精度を実現!!
スピーディに高精度の飲酒点検が行え、
信頼性の高いアルコール測定記録を残すことができます。

<お申し込み・お問い合わせ>

株式会社システムオリジン

TEL: 03-3834-8352

関東支店営業本部

〒101-0021 東京都千代田区東神田5-3-4-7F

拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海

名古屋・関西・中国・九州

<製造元>



東海電子株式会社

<http://www.tokai-denshi.co.jp>